

施設長 各位

那覇市医師会
会 長 山城千秋
担当理事 宮城政剛



「新型コロナウイルス感染症」関連資料の提供について

平素より医師会事業へのご支援ご協力賜り感謝申し上げます。

那覇市保健所・仲宗根所長より「沖縄県疫学・統計解析委員会」からの報告事項をご提供いただきましたので下段にてご報告致します。

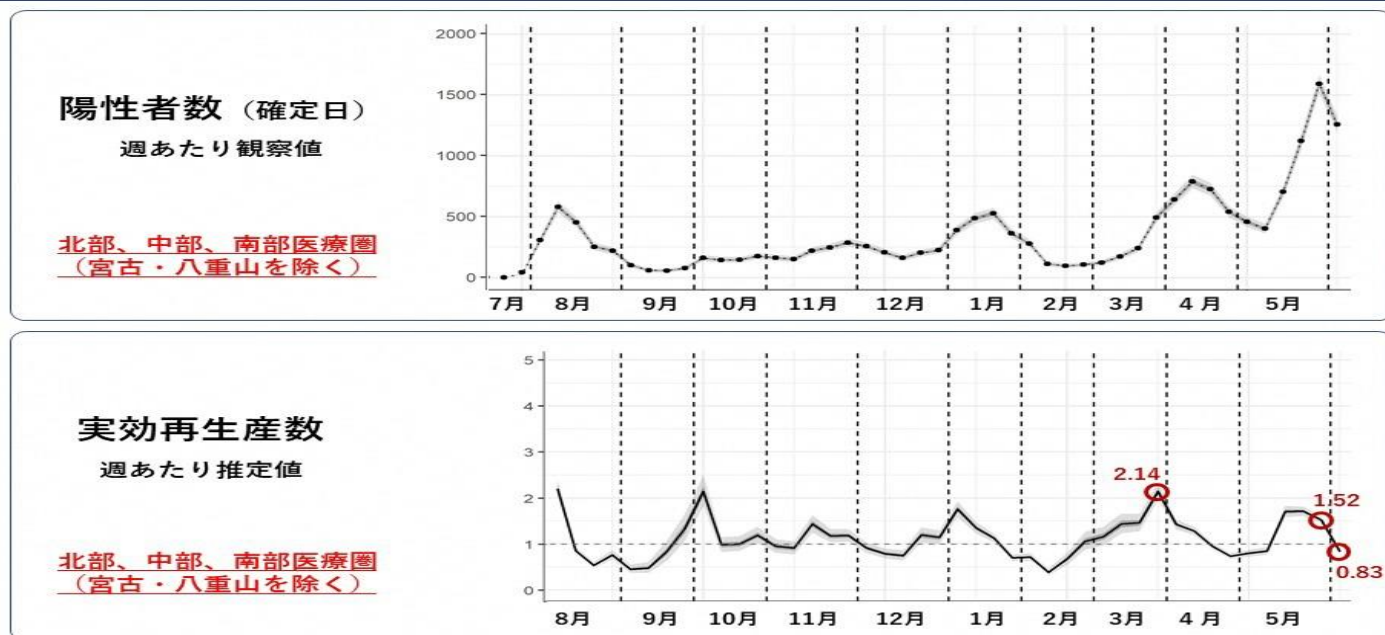
☆ 問合せ先（那覇市医師会 事務局：前泊・上原 / 電話 098-868-7579）

.....記.....
◎ 沖縄県疫学・統計解析委員会から【現状】と【推定】と【解説】をいただきましたので、ご報告致します。（取扱注意でお願いいたします。） 【那覇市保健所 所長 仲宗根 正】

【現状】

沖縄県における先週（5/31-6/6）の新規陽性者数は、1,548人（前週 1,851人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における週あたりの実効再生産数(R)は0.83（95%CrI:0.79, 0.88）であり、ようやく減少へと転じています（図1）。

図1 陽性者数の推移と実効再生産数（北部、中部、南部）



世代別では、20代が最多で285人（18%）、次いで30代が222人（14%）と若い世代、とくに男性に感染が多く認められます。20歳未満は342人（22%）と前週の368人より減少していますが、全体に占める割合が、過去もっとも高い値となっています。小児の感染経路は家庭内が最多ですが、部活を含めた学校内での感染も増えていました。

一方、65歳以上の高齢者は169人（11%）と前週の138人（7%）より大きく増加しています。75歳以上は93人（6%）であり、このうち31人（33%）が施設内感染、22人（24%）が家庭内感染でした。若者中心の流行から、徐々に中高年へと移行しています。とくに、訪ねてきた子や孫と食事をしての感染を多く認めます（図3）。

図3 年齢階級別陽性者数の推移（週あたり／沖縄県）



医療圏別では、北部 44 人（前週 60 人）、中部 573 人（前週 625 人）、那覇市 410 人（前週 518 人）、南部 378 人（前週 460 人）、宮古 65 人（前週 69 人）、八重山 75 人（前週 113 人）でした。県外からの渡航者は 2 人でした。

すべての医療圏で減少傾向にあります。とくに大きな流行となっていた八重山の流行が抑え込まれてきました。その一方で、中部は前週比 0.92 に過ぎず、流行が続いていてピークアウトしたとは言えません。なお、北部と中部では、20 歳未満が占める割合が、それぞれ 32%、25%と高いことが特徴です。

市町村別では、多い順に、那覇市 410 人（前週 518 人）、沖縄市 194 人（前週 247 人）、浦添市 159 人（前週 187 人）、宜野湾市 127 人（前週 152 人）、うるま市 122 人（108 人）でした。前週比でみると、高い順に、北谷町 1.38、北中城村 1.30、南風原町 1.22、うるま市 1.13、与那原町 1.13 でした。

入院患者については、先週末（6 月 6 日）が 539 人（5 月 30 日 477 人）と急速に増加し続けています。このうち、酸素投与など中等症患者 447 人（5 月 30 日 369 人）、気管挿管など重症患者 19 人（5 月 30 日 12 人）でした。

病床のひっ迫を受けて、在宅で酸素投与を受けている感染者も増え始めています。診療所医師や訪問看護が支えています。状態変化の激しい急性疾患でありながら、患者が入院できないでいるのは、かつてない異常な事態です。

なお、沖縄県内のウイルスは、ほぼ全域においてイギリス型に置き換わっています。一方、現在までのところインド型は確認されていません。

【推定】

今週の新規陽性者数は、さらに減少して 1000-1200 人と推定します。ただし、入院患者数が減少に転ずるのは、今週末か来週以降と考えられます。実効再生産数が 0.5 にまで抑えられれば、入院患者数は増加せずに減少へと転じます。現状の 0.8 のままであれば、今週末には 600 人に至ると見込まれます。ただし、病床確保が困難なレベルとなっており、実際には自宅療養で酸素投与が行われるなど、入院できない中等症以上の患者が増加していくことが想定されます。一方、気管挿管等が行われる重症患者数は 24-27 人と見込まれます。

【解説】

春休み、そして大型連休を契機として、沖縄県では大きな流行が生じています。しかし、5 月 30 日をピークとして新規陽性者数は減少に転じています。緊急事態宣言の効果が現れていますが、増加している地域もあるため、コントロールされているとは言えません。

新規陽性者数のピークを過ぎた頃から、流行の主体が若者から高齢者へと移行していきます。ただし、沖縄県では、少なくとも 2 割の高齢者が 1 回のワクチン接種を終わらせているため、これが流行動態に何らかの影響を及ぼすことも期待されます。

高齢者施設の利用者は感染リスクが高く、先週も75歳以上の陽性者のうち3割が施設内感染でした。重症化リスクも高いため、とくに優先してワクチン接種を進めてください。これにより集団感染のリスクを大きく減らすことが期待できます。

石垣市は大きな流行となりながらも、高齢者施設での集団感染が一例も発生していません。その背景には、市内の入所者と職員のうち、実に9割に対してワクチン接種を2回完了させていることがあると見られます。

ただし、ワクチン接種が終了しても、基本的な感染対策は引き続きお願いします。どこまで対策を緩められるかについては、今後、疫学調査の分析等を経て、示していければと思います。

いずれにせよ、現在はワクチン接種が完了していない高齢者が大半であり、過去最大の流行の最中にありますので、できるだけ高齢者への感染を防いで被害を減らし、医療体制への負荷を軽減することが必要です。

会食については、同居する家族や固定された親しい方に限定するようお願いいたします。とくに、高齢者のいる世帯を訪問したり、食事をしないようにしてください。とくに高齢者施設では、施設内での面会をすべて中止とするなど、感染対策の強化をお願いします。

高齢者や持病や肥満のある方は、感染すると重症化する可能性が高いです。できるだけ人込みを避けて、感染しないように心がけてください。医療機関への通院、生活必需品の買い出しなど必要な外出にあたっては、マスクを着用し、公共のモノに触れたときは、手を洗うか消毒してください。

変異ウイルスでは、高齢者施設での感染拡大が極めて速くなっています。入居者や職員に発熱や咳嗽、強い倦怠感を認めるときは、速やかに検査を行ってください。こうした症状を認めている場合には、その場で結果が得られる抗原定性検査が有用です。

施設内で新型コロナが発生している場合には、抗原定性検査のキット購入について「介護事業所等に対するサービス継続支援事業」による経費支援が沖縄県から受けられます。詳しくは、県のコロナ対策本部にお問い合わせください。

小児において感染が広がっています。ほとんどの小児が無症候または軽症で推移することから、これまで診断されているのは、おそらく氷山の一角に過ぎないと考えられます。すなわち、サーベイランスで捉えている以上に、大きな流行が生じている可能性があります。

イギリス型の変異ウイルスへの置き換わりが要因となっているかは不明です。しかし、マスクを正しく装着することが苦手で、身体接触の機会が多い子供たちにおいて、感染性を増したウイルスが拡がりやすい可能性はあります。

今週から始まっている休校と部活動の休止により、子供たちの集団感染のリスクは軽減されます。しかし、家庭内での感染リスクは残されているため、家族以外との会食を控えるなど、大人が家庭内へとウイルスを持ち帰らないことが重要です。

子供たちを両親で見守ることができない場合には、学童クラブや親族による支援など、できるだけ少人数で過ごさせるようにしてください。とくに、祖父母など高齢者に預けることは避けるようにしてください。ただし、祖父母がワクチンを2回接種している場合には、柔軟な対応とすることも考えられます。

沖縄県に発出されている緊急事態宣言は、6月20日に終了予定となっています。6月2日に開催された専門家会議では、7日間の新規陽性者数の合計が50人以下とすることが、リバウンドを防ぐためにも求められるとしています。

十分に下がりきらなければ、緊急事態宣言の再延長も考えられますが、3月から続く自粛への疲れもあり、その後は十分な効果が得られないことも考えられます。

よって、あと2週間、徹底して封じ込めるこめることでリバウンドを防ぎ、その間にワクチン接種をできるだけ推進すること。そして、行政は渡航者や飲食店、イベントにおける対策を強化して準備しておくことが、7月以降の活動再開に向けた条件になると考えられます。

以上です。